

ピアノ指導者半期交代制導入の教育的効果

～アンケート結果からの考察～

Educational Benefits of a Half-year Term Piano Instructor Rotating System.

- Results from a student questionnaire.

友廣 憲子

I はじめに

本学は保育者養成校として子どもたちの感性を育む音楽教育を重要視し、特にピアノ技術向上の為の様々な教育を行っている。教育の1つは卒業演奏会である。この演奏会はピアノ成績上位者に選出された学生のみが演奏を行っていた。しかし、選出されない学生が就職先の研修期間までピアノを練習することを継続せず、ピアノ技術が低下して就職している現状を打破するために、平成21年度卒業演奏会から保育専攻2年生全員に出演することを原則としている。

学生にとって卒業式間際に演奏会を実施することは精神的に負担があり、研修に身が入らないなどの意見があることも承知している。しかしながら、現場では子どもたちが待っているのである。卒業後は「先生」と呼ばれる責任感を考えれば子どもに音楽の楽しさを伝えることができる保育者を目指すべきであり、ピアノ技術を高く維持してこそ、演奏に（伴奏に）自信が持てるのである。この教育は今後も続けていかなければいけない1つと考えている。

2つ目は大学入学前講座としてピアノ個人レッスン（バイエル50番に到達していない学生対象）の講座を設けている。本学の音楽教育系授業の到達目標について説明し、講義と個人レッスンを実践している。

その結果、入学前は片手しか演奏できなかった学生が入学までにバイエル50番まで練習して入学してくる学生が年々増加している。

3つ目はピアノ初心者やバイエル50番に達していない学生対象にスキルアップ（ピアノ）講座を設け、ピアノ嫌いの学生が自分から練習するきっかけ作りのお手伝いを担う講座として童謡曲（課題曲）の譜読みのサポートを行っている。ピアノに自信がなかつ

た学生もいつのまにか演奏できるようになったと自信をつけさせる講座として現在も継続中である。

4つ目の新たな試みは平成27年度からピアノ指導者半期交代制システムを導入した。これは学生に様々なピアノ教員（すべて非常勤講師）の指導を受講できるようにしたものである。

本論はピアノ指導者半期交代制システム導入を行った結果、学生がどのように感じているのか、この導入を今後も続けていくべきかを検討するために学生にアンケートを実施しその結果からピアノ教育について考察する。

II 本学のピアノの授業・講座

教科名	子どもと音楽1 a (ピアノ・楽典)	
開講科目	1年前期	
授業内容	ピアノ個人レッスン	
	楽典	
時間配分	ピアノ 45分 楽典 45分	
担当	ピアノ	5人 [非常勤講師]
	楽典	筆者
教科名	子どもと音楽1 b (ピアノ・楽典)	
開講科目	1年後期	
授業内容	ピアノ個人レッスン	
	楽典	
時間配分	ピアノ 45分 楽典 45分	
担当	ピアノ	5人 [非常勤講師]
	楽典	筆者
教科名	子どもと音楽III a (ピアノ・楽典)	
開講科目	2年前期	
授業内容	ピアノ個人レッスン	
	楽典	

時間配分	ピアノ 45分 楽典 45分	
担当	ピアノ	5人 [非常勤講師]
	楽典	筆者
教科名	子どもと音楽Ⅲb (ピアノ・楽典)	
開講科目	2年後期	
授業内容	ピアノ個人レッスン	
	楽典	
時間配分	ピアノ 45分 楽典 45分	
担当	ピアノ	5人 [非常勤講師]
	楽典	筆者

保育スキルアップ講座 (ピアノ)

講座名	保育スキルアップ講座 (ピアノ)
内容	ピアノ個人レッスン
	童謡の譜読みサポート
担当	常勤教員1名+筆者

実習前対策指導 (ピアノ)

講座名	実習対策指導 (ピアノ)
内容	ピアノ個人レッスン
	伴奏アレンジ、譜読み指導
担当	筆者

Ⅲ 調査

「対象」保育専攻2年生 107名
 保育専攻1年生 100名

「調査方法」アンケート

「調査期間」

平成28年1月21日(木)～1月26日(火)

Ⅳ 調査結果の概要

1) 担当教員半期交代制になって良かった点

数字は回答数

項目	保2年	保1年
演奏について指導してもらえる	46	44
表現方法	39	21
注意してもらえる	36	38

指使い	2	1
楽譜の読み方	19	14
回答なし	18	13

図1 良かった点

図1は平成27年度前期後期、ピアノ教員が2人交代した後に質問した結果である。保育2年生は平成27年度1年間通年で同じ教員に指導を受けている。2年次になって半期ごとにピアノ教員が交代し、3人の教員に指導を受けた後の結果である。良かった点として「演奏について指導してもらえる」が保育専攻2年生(42.9%) 保育専攻1年生(44%)となっている。「指使いの指導」は保育専攻2年生(18%)、保育専攻1年生(10%)。「回答なし」は保育専攻2年(16.8%)、保育専攻1年(13%)となっていて「交代して良かった」と感じていない学生は全体で10%程度であった。

「楽譜の読み方」については保育専攻2年生(17.7%) 保育専攻1年(14%)となっていて、楽譜の読み方を指導されて楽譜を理解して演奏する大切さを改めて感じる事ができたようである。

2) 受講する態度に変化はありましたか?

数は回答数

項目	保育専攻2年	保育専攻1年
はい	30	35
いいえ	77	65

図2 態度の変化

図2は、「受講態度の変化があった」と感じていると回答したのが保育専攻2年(28%)、保育専攻1年(35%)、「態度に変化はない」と答えた学生は保育専攻2年生(71.9%)、保育専攻1年(65%)であり、「態度に変化があった」と答えたのは全体の30%であった。

3) 練習時間に変化はありましたか?

数は回答数

項目	保育専攻2年	保育専攻1年
はい	25	27
いいえ	82	73

図3 練習時間について

コメント

練習しない時間が増えた
どこが間違っているかわからない
気持ちが入らない
練習時間が長くなった
少しでも上達するよう努力するようになった
進むペースが早くなり練習時間が増えた
たくさん練習するようになった
付箋を貼ってもらって練習量が増えた

図4 変化の理由（保育1.2年生のコメント抜粋）

図3は練習時間の変化を調査した。保育専攻2年生は、「練習時間に変化があった」は（23.3%）、保育専攻1年（27%）、「変化はない」と答えたのが保育専攻2年生（76.6%）、保育専攻1年（73%）が何らかの変化があったと答えている。図4では変化があった学生の意見をまとめている。学生のコメントからは割合に対する明確な答えはない。

4) 演奏方法の変化について何か感じていますか？

数は回答数

項目	保育専攻2年	保育専攻1年
はい	32	24
いいえ	75	76

図5 演奏方法

コメント

テンポが速く弾けるようになった
以前より音の強弱や手の動かし方を注意するようになった
指番号を教えるもらうことで演奏方法が変わった
指の置き方
ペダルの使い方
強弱を表現できるようになった
表現の仕方が上手になってきた
レガートやタイなどを意識するようになった
肩の力が抜けるようになった
正しい姿勢を保てるようになった

図6 演奏方法（保育専攻2年生コメント）

前より指を立てるようになった
1音1音はつきり弾くようになった

自分の音を聞こうとするようになった
ピアノのタッチ
強弱や表情豊かに演奏ができるようになった
コードを使用するようになった
落ち着いて弾けるようになった
音の強さ、速さの表現
指使い
表現の仕方に注意をするようになった

図7 演奏方法（保育専攻1年生コメント）

図5図6図7は「演奏表現の変化について変化があった」保育専攻2年（29.9%）、保育専攻1年（24%）であり、「変化は感じていない」保育専攻2年（70%）保育専攻1年（76%）が演奏方法の変化はないという結果になっている。学生のコメントからは各々の技術向上への肯定的な意見が述べられている割合が高い。

5) ピアノ担当者半期交代制について

数は回答数

	保育2年生	保育1年生
賛成	61	70
反対	38	27
どちらともいえない	9	3

図8 賛成か否か

6) メリットと思う点（コメント抜粋）

「指番号などしっかり教えてくださり、自分に合った弾き方を指導してくださいました」
 「新たな気持ちで練習できました」
 「担当者が変わることで教わることも変わるので、たくさんの事を学びました」
 「表現力がつく」
 「練習を必死にするようになった」
 「気分転換になる」
 「様々な音楽表現を学べる」
 「意識が変わる」
 「自分でやらないといけないという気持ちになった」
 「ピアノの指の場所を的確に教えてくれる」「たくさんの先生と親しくなれる」
 「違う先生から指導を受けることで、今まで気づかなかった自分のクセや弱い部分を改めて知り、指摘してもらうことでピアノへの意欲がさらに高くなった」

以上が保育専攻2年生のコメントである。

全体の学生の意見として半期ごとに指導教員が変わることで、緊張感を保つことができること、様々な表現方法を教えていただけることにメリットを感じている学生が多くみられた。

「落ち着いてできるようになった」

「一人の先生に固執しない」

「様々な表現方法を知ることができる」

「気持ちが新しくなる」

「色々な先生からピアノを教えてもらえる」「いろいろな先生と接する機会がふえた」

「違う教え方がある」

「表現の幅が広がる」

「色々な指導の仕方があり、自分に合う練習がわかるようになる」

「みんな平等になる」「緊張感がでる」

以上が保育専攻1年生のコメントで「みんなが平等になる」という意見もあり、ピアノ指導者半期交代の目的に近い内容が記されていた。

V 結果の考察

図8の結果や全体のアンケート結果から、概ね学生はピアノ指導者半期交代制について賛成数が反対より上回った結果となった。ただし、保育専攻2年生は指導者が変わることに反対意見が35%いることが確認できた。保育専攻2年生は1年時通年同じ指導者からの指導を受講しているため、半期交代制になじめない、「変わらない方がやりやすい」

「何故、変わらなければいけないのか」というコメントがあったことは事実である。しかしながら、2学年あわせると、指導者が違えば、それだけ様々な表現方法を教えてくださることを、それぞれの先生の表現の違いを吸収できることを良いと感じていることも判明した。自由曲（バイエル・ブルグミュラム－25番練習曲・ソナチネアルバム・ソナアルバム）の仕上がりや童謡曲の自分の演奏に満足しているからではないかと推察する。

ピアノを練習するうえで自分の音を良く聴き、緊張感を持って練習することは必要なことである。

図3や図4の結果から新しい指導者になり緊張感を持ち練習に臨んでいること、練習する時間も増えたとコメントしている学生が多くみられた。また、

指番号を守ることを注意されることで、指番号を守れば演奏が容易になり、演奏しやすいことが理解できた結果であろう。

VI 結語

今まで本学の音楽（ピアノ）教育は入学してから卒業までの2年間同じピアノ指導者が一人の学生を担当してきた。学生を〇〇先生のお弟子さんという呼び方は、音楽大学のピアノ教育を受けてきた筆者にとって、ごくあたりまえのことであった。音楽大学では4年間同じ先生に教育を受けることが通常である。ピアノの教育は指導を受ける空間が狭く、1対1マンツーマン指導唯一の教科科とあってよいであろう。その為、教員と学生とのコミュニケーションが重要になってくる。ピアノレッスンをコミュニケーション能力の獲得の機会と考えて受講する学生はピアノレッスンも良い環境で受講することができている。〇〇先生とは合わないと言って、訴えてくる学生はいる。人間同士様々な関係性は致し方ないと思っているが、学生の不満を聞きはしても、先生方のひたむきな指導を批判してはいけなことを心がけてきた。

学生からの言い分を聞いたうえで、必ず話をすることは、「あなた自身のことを聞かせてね。練習は毎日している？」この言葉は効果がある。レッスンを受講するための努力をまず行ったのかを必ず聞くことで、「自分が練習しないのが悪いのだけれど」と言うようになる。先生方は学生の技術を向上させるためにレッスンをしてくださっていて、指導への情熱がゆえに時には厳しいこともおっしゃること、あなたたちの為におっしゃってくださっていることを諭すように心がけている。そうすることで、自己を省みることになる。このような一貫した意見を持っていないとピアノ指導者（非常勤講師）に対して学生が反発することを覚え、ピアノ教育に影響を与えるかもしれないからである。ピアノ指導者からは各学生への対応について質問がある。学生をサポートし、話し合いを行い学生とのスムーズな関係を築いてもらえるような情報交換を月に2回程度行っている。今後もピアノ教員と学生との人間関係のサポートを心がけていきたい。

今回、このアンケート調査を通して、ピアノ指導者半期交代制が学生に及ぼす影響について明らかに

なったことをしっかりと受け止め、今後も学生のアンケート調査を行い、検討していきたい。

学生のピアノ技術向上にいかなる教育が適しているか見極めて、学生の技術向上を願いつつ更に研究を深めていきたい。

〈引用・参考文献〉

安田 寛・長尾 智絵 (2011)

「保育におけるピアノの流行」と保育者養成機関ピアノ教員の関心の在り方との関係について 奈良教育大学紀要

青木 理恵 (2008)

子どもを伸ばすコーチング・ピアノレッスン

宮脇 長谷子 (2001)

保育者養成校におけるピアノ指導の現状と課題～養成校へのアンケート調査を通して～